

社会移動・人口推計

本市の地域ごとの市民の流出入や既成市街地における住民の新陳代謝の傾向を把握するため、本市の直近年における純移動率、今後の将来人口を推計した。

(1) 社会移動

令和 3 (2021) 年から令和 4 (2022) 年の各年の住民基本台帳を用いて、町丁目ごとの純移動率を推計した。

1) 5 歳階級・男女別 2021 年 2022 年の純移動率

- ・男性では、0～5 歳、20～24 歳、25～29 歳において四分位範囲が大きく、純移動率が町丁によって大きく異なっている。65 歳以上・75 歳以上を除いて、すべての年齢層の中央値は正の値を示しているため、多くの町丁では転入数 > 転出数 (転入超過) の傾向がある。
- ・女性では、男性と同様に 0～5 歳、20～24 歳、25～29 歳において四分位範囲が大きく、純移動率が町丁によって大きく異なっている。特に 25～29 歳の中央値は負の値を示しており、半数以上の町丁で転出数 > 転入数 (転出超過) の傾向がある。また、65 歳以上・75 歳以上で同様の傾向であるが、そのほかの年齢層においては転入数 > 転出数 (転入超過) の傾向である。

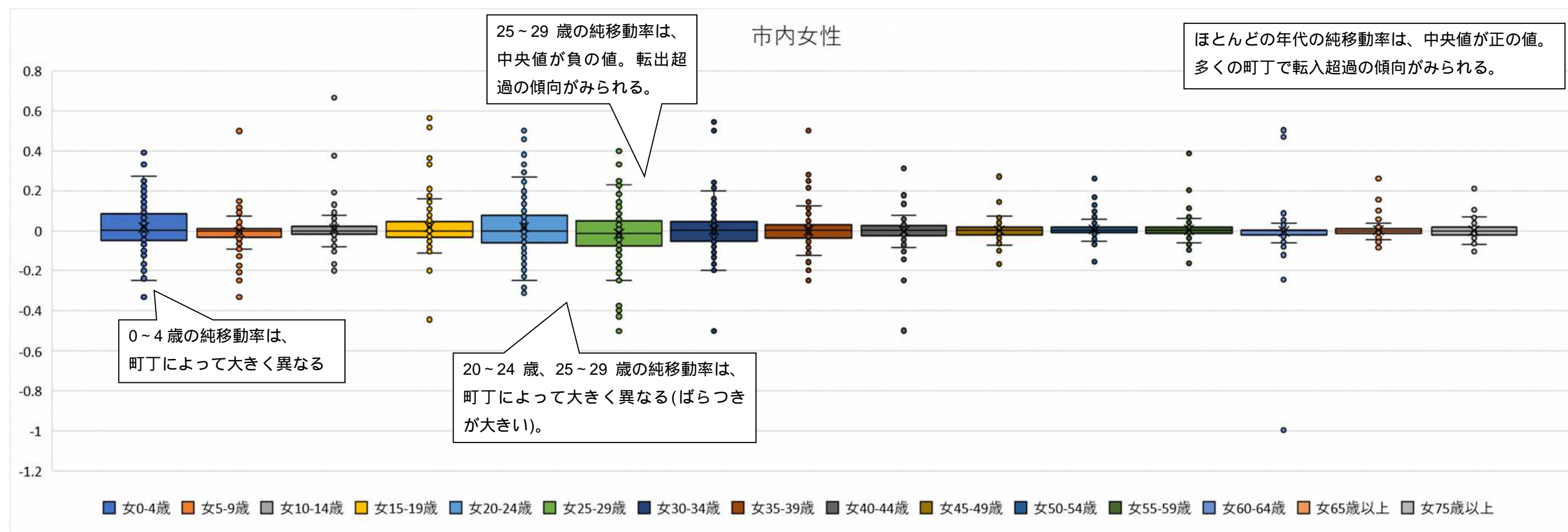
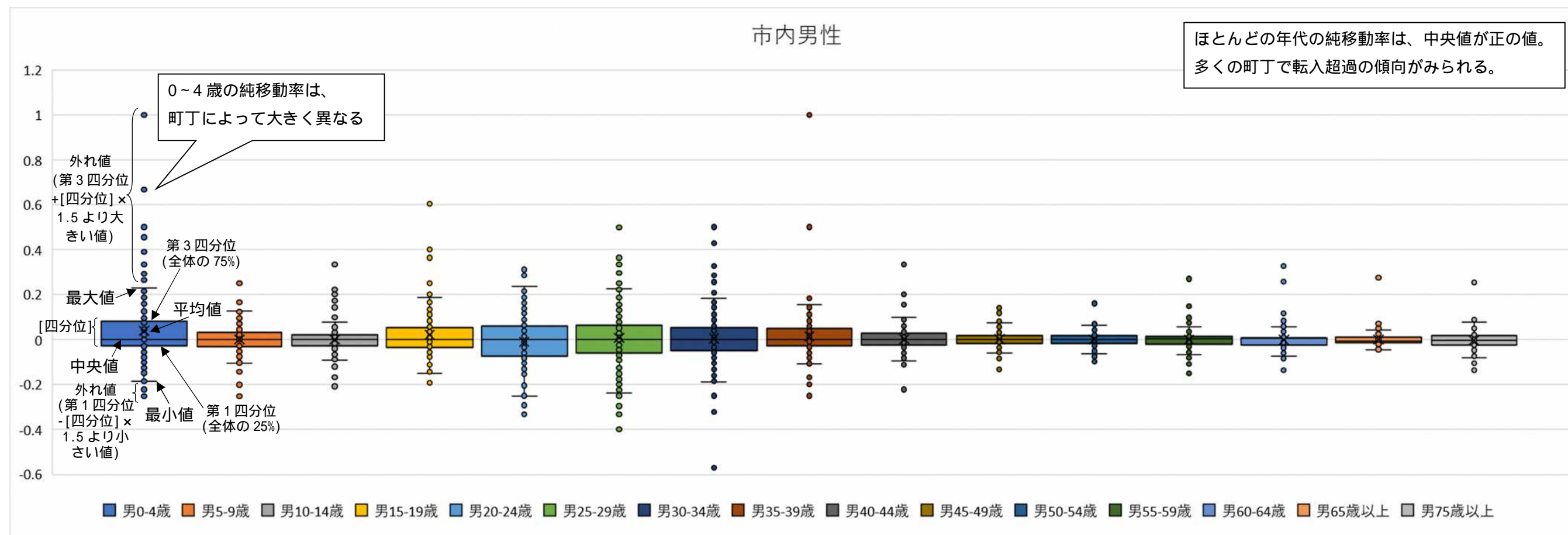


図1 2021年 2022年の5歳階級・男女別純移動率の箱ひげ図(住民基本台帳を活用した推計値)

2) 2015 年 2016 年・2021 年 2022 年の男女別純移動率 (20~39 歳)

(男性)

- ・2015 年 2016 年の男性 (図 2) で、20~24 歳・25~29 歳では正の値 (転入超過) を示す町丁が航空公園駅や所沢駅周辺などの市中心部に集中しているが、30~34 歳・35~39 歳では中心部が疎になり、市北部・西部・東部に多くが分布している。このことから、ライフステージの変化により、市郊外に拠点を移していくことがわかる。
- ・2015 年 2016 年と比べて、2021 年 2022 年の男性 (図 3) で、20~24 歳の傾向はほぼ同じである。25~29 歳では所沢駅や小手指駅など鉄道駅周辺の移動率が増加したが、市北部や東部の郊外でも移動率が増加している。30~34 歳・35~39 歳では、郊外で転入超過の町丁が集中している傾向は継続しつつも、小手指駅・西所沢駅・下山口駅周辺の移動率が向上している。
- ・2021 年 2022 年の男性 (図 3) で、新所沢駅周辺の昭和 30 年代に整備完了した地域 (参考図) では、20~24 歳を除いて、概ね転入超過である。市北部の昭和 40 年代に整備完了した地域では、20~24 歳を除いて、概ね転入超過である。昭和 50-60 年代に整備完了した地域では、場所及び年齢層によって転入・転出の傾向が異なる。平成以降に整備完了した地域では、全ての年齢層で概ね転入超過である。

(女性)

- ・2015 年 2016 年の女性 (図 4) において、20~24 歳・25~29 歳・30~34 歳の純移動率の傾向は概ね同じであり、鉄道沿線の町丁に転入超過の傾向がみられる。35~39 歳では、鉄道沿線に加え、小手指駅・西所沢駅・下山口駅などがある市の中央西側で転入超過を示す町丁が多い。
- ・2015 年 2016 年と比べて、2021 年 2022 年の女性 (図 5) では、20~24 歳の傾向はほぼ同じである。25~29 歳・30~34 歳では、小手指駅・西所沢駅・下山口駅などがある市の中央西側で転入超過を示す町丁が増加している。35~39 歳の傾向はほぼ同じである。
- ・2021 年 2022 年の女性 (図 5) で、新所沢駅周辺の昭和 30 年代に整備完了した地域 (参考図) では、すべての年齢層で概ね転入超過である。市北部の昭和 40 年代に整備完了した地域では、25~29 歳を除いて、概ね転出超過である。昭和 50-60 年代に整備完了した地域では、すべての年齢層で概ね転入超過である。平成以降に整備完了した地域では、全ての年齢層で概ね転入超過である。

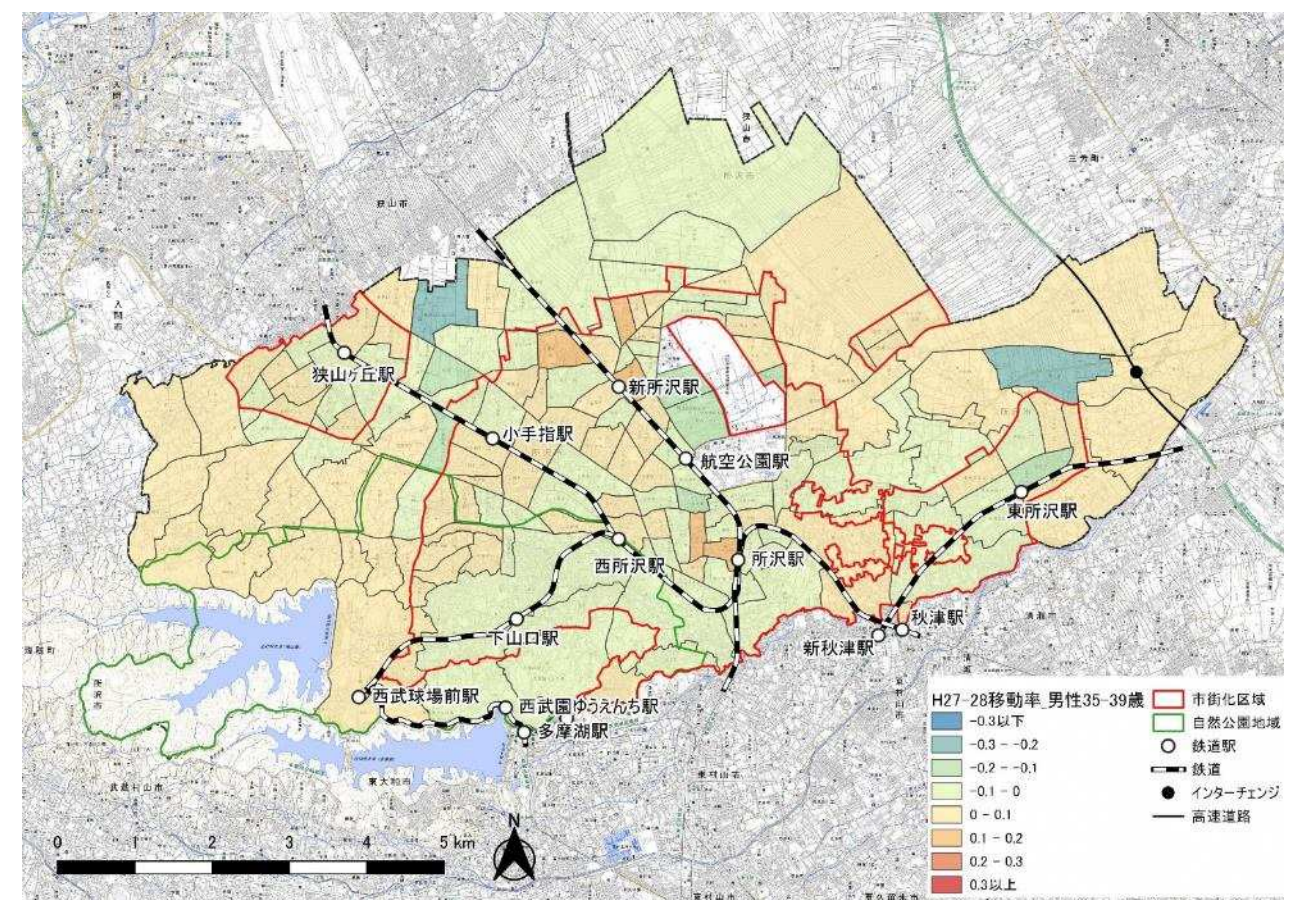
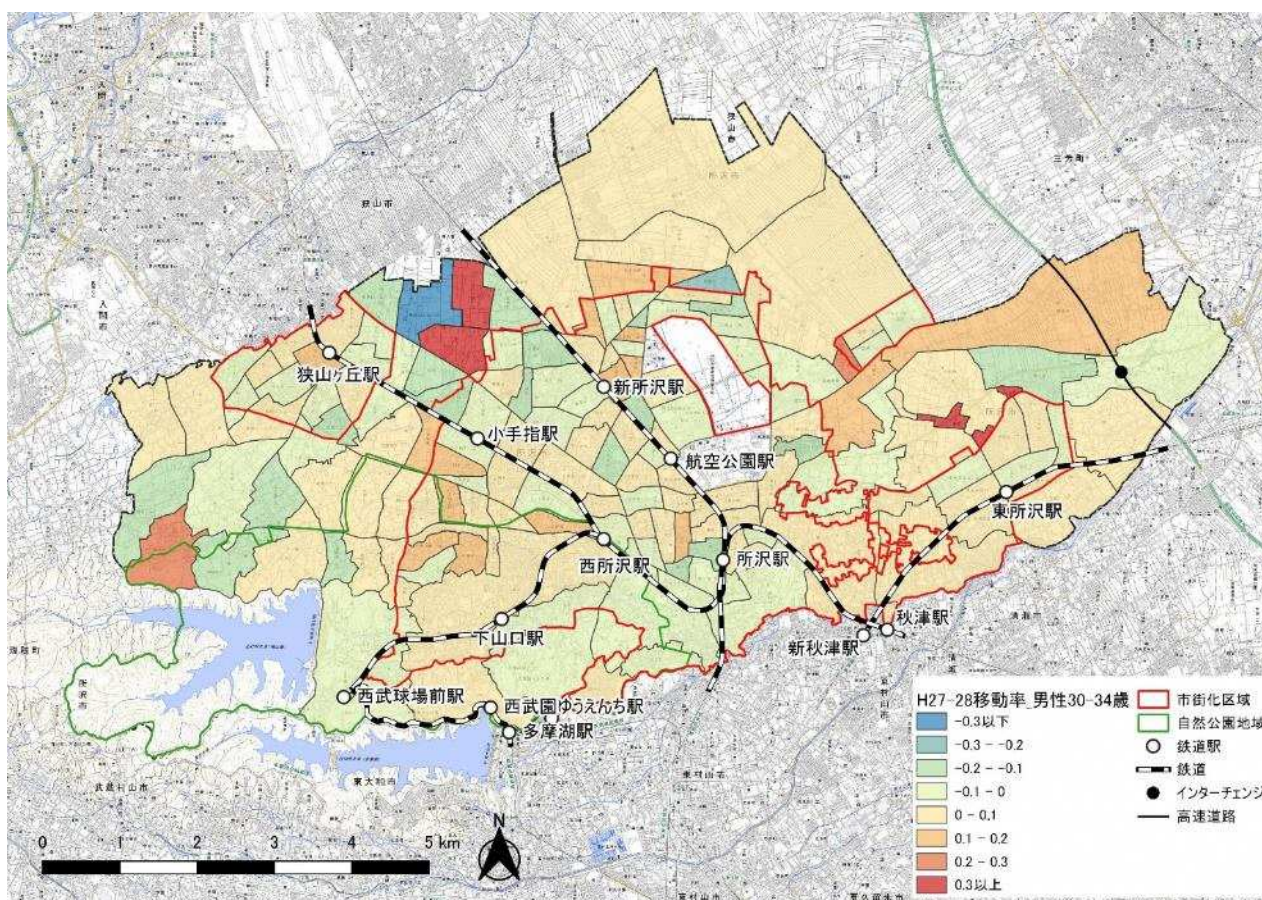
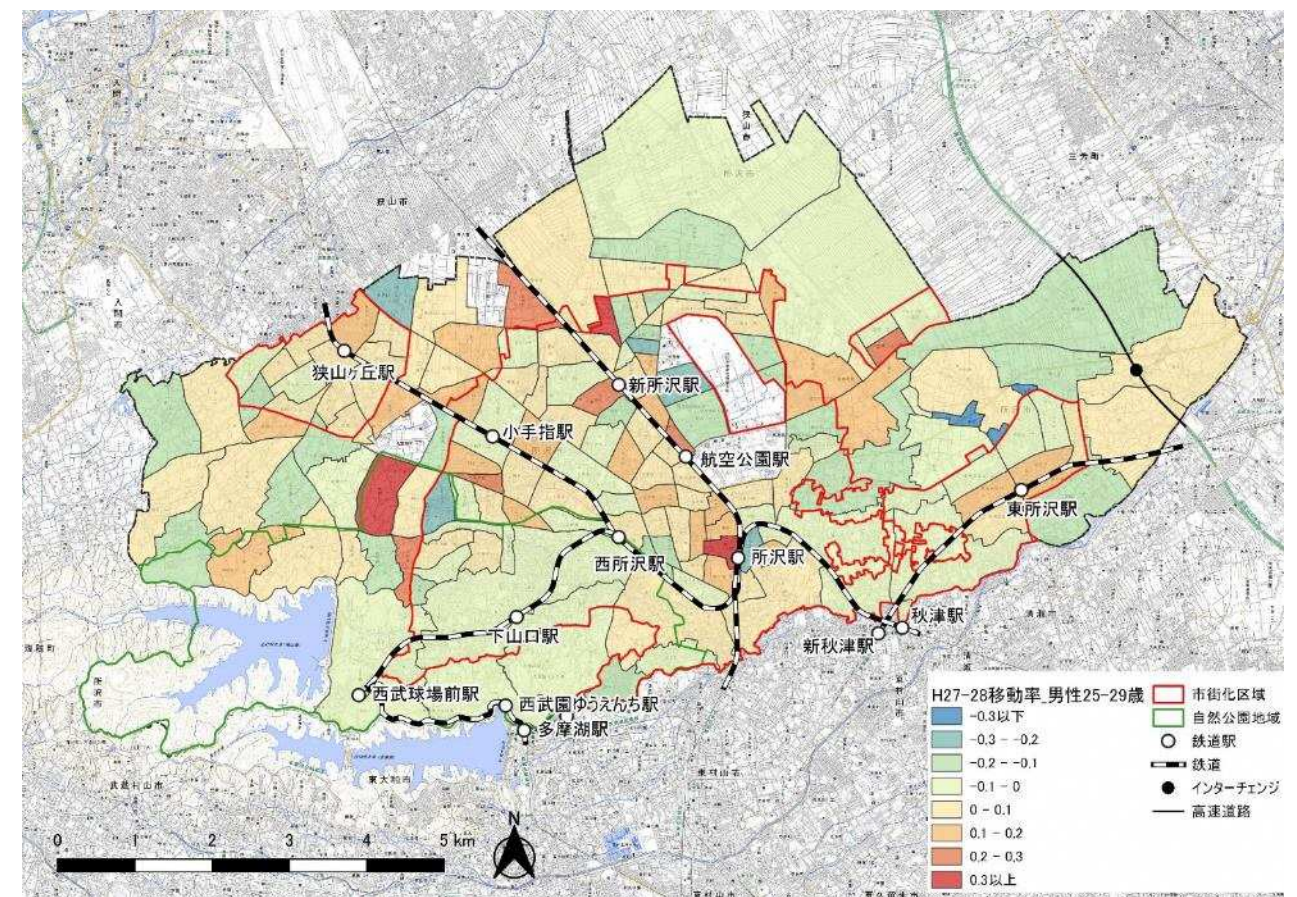
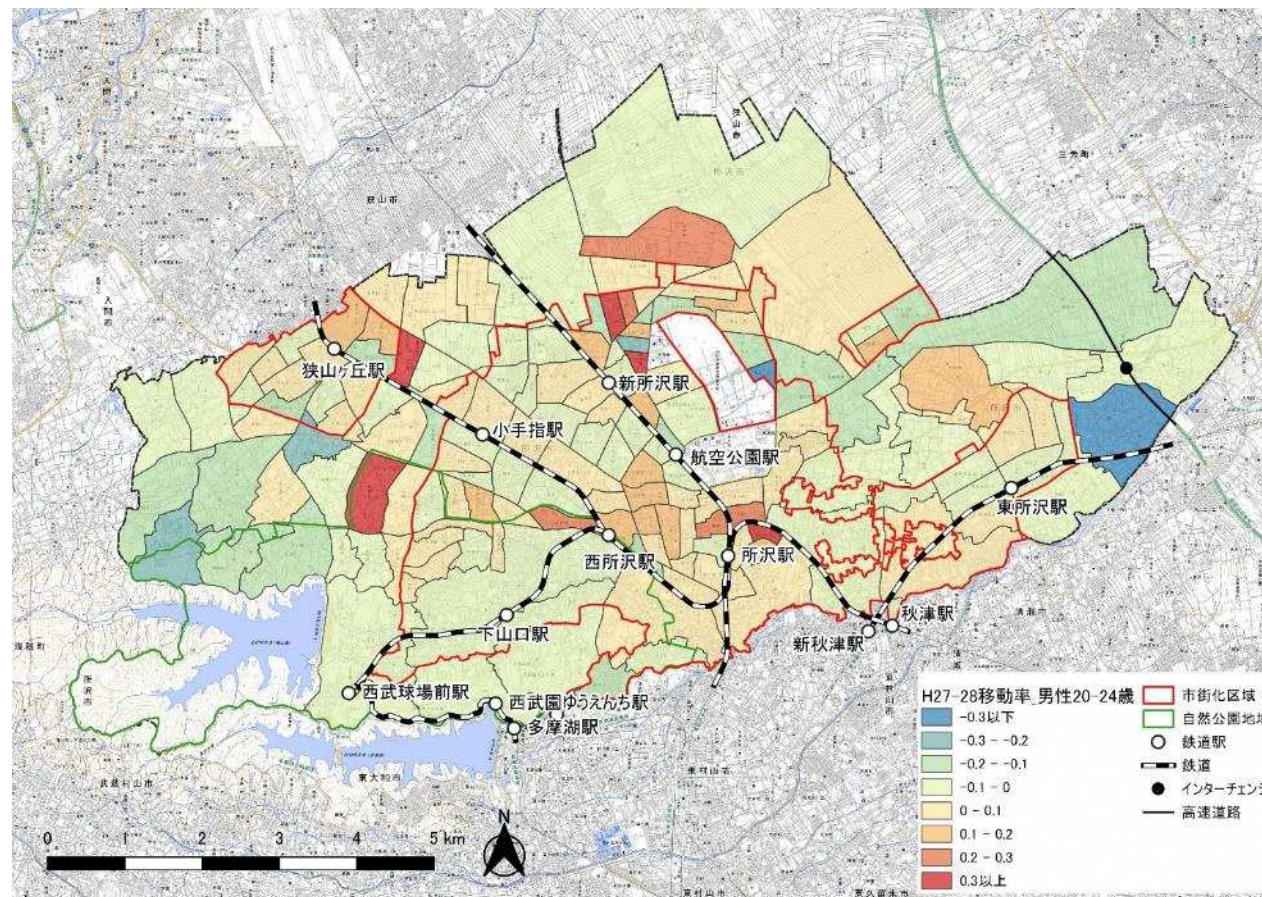


図2 2015年 2016年の20～39歳・男性の純移動率（住民基本台帳を活用した推計値）の分布

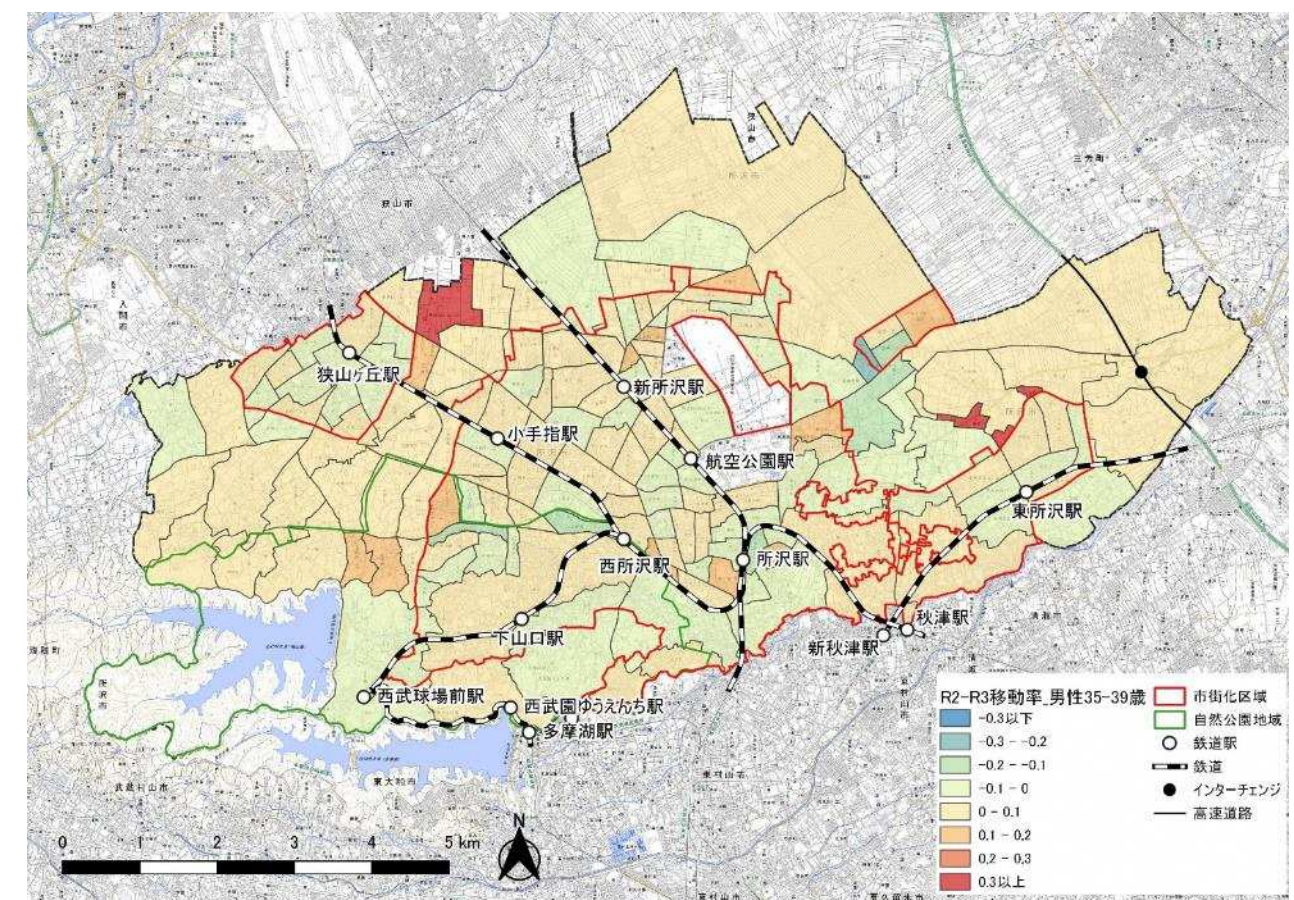
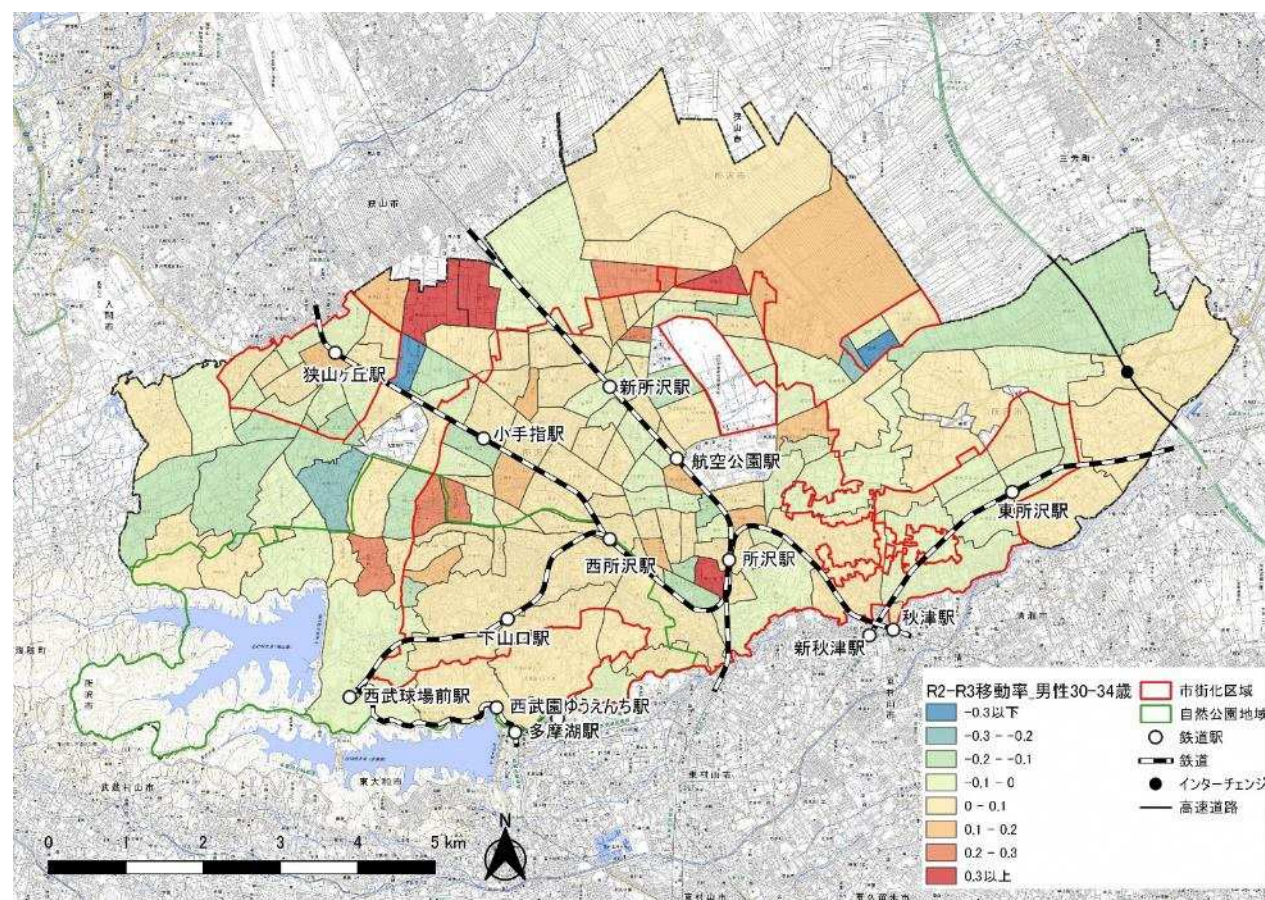
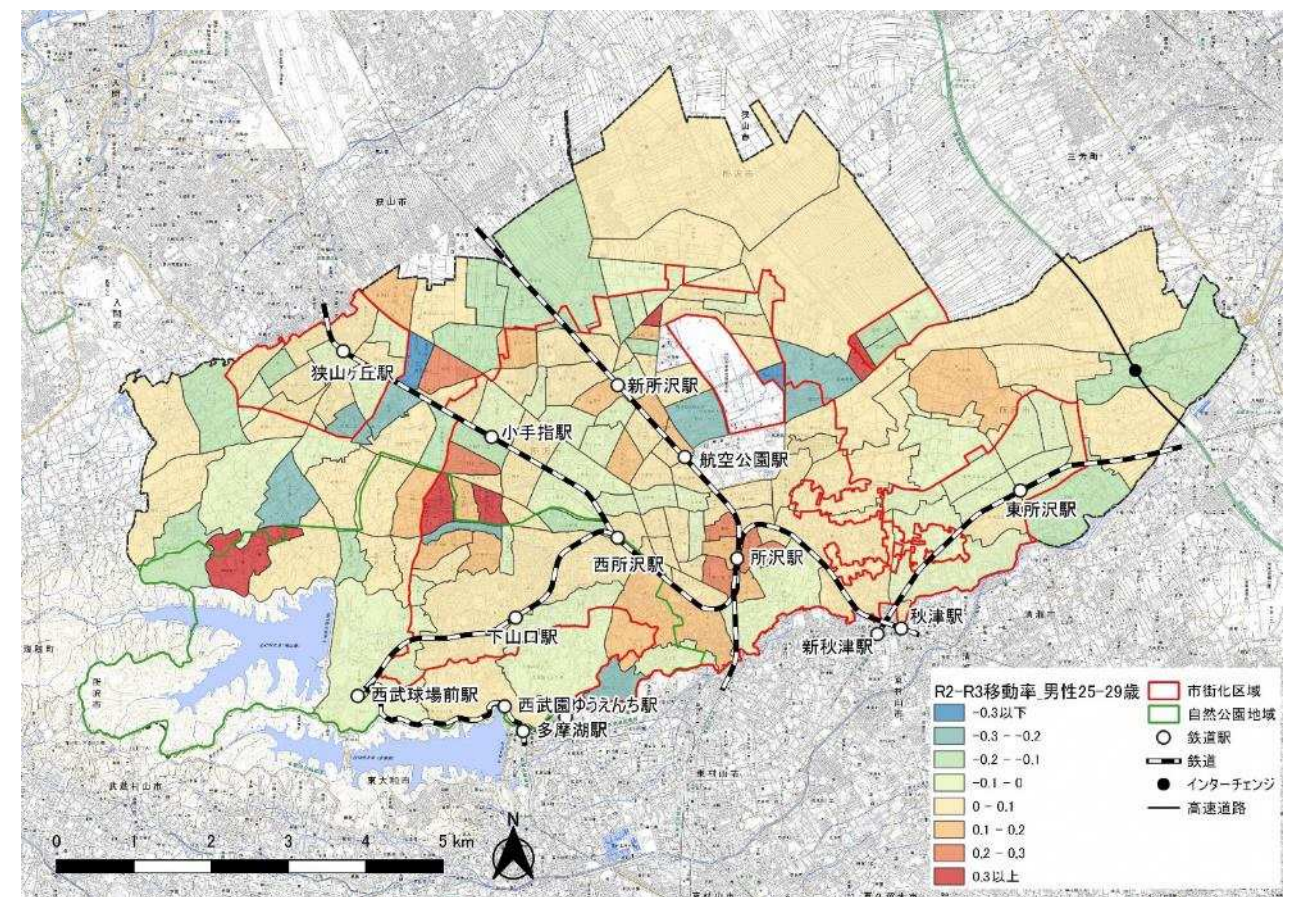
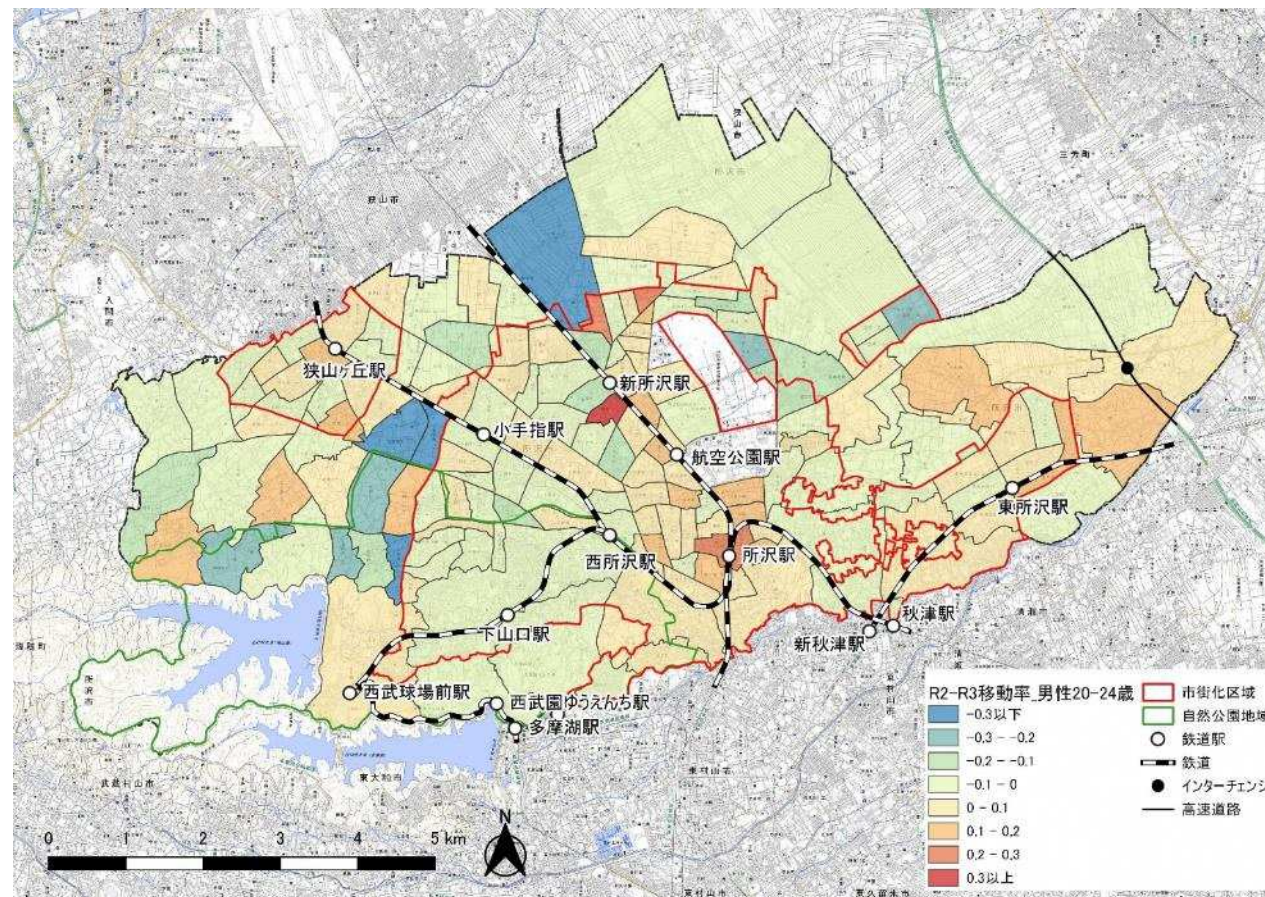


図3 2021年 2022年の20～39歳・男性の純移動率（住民基本台帳を活用した推計値）の分布

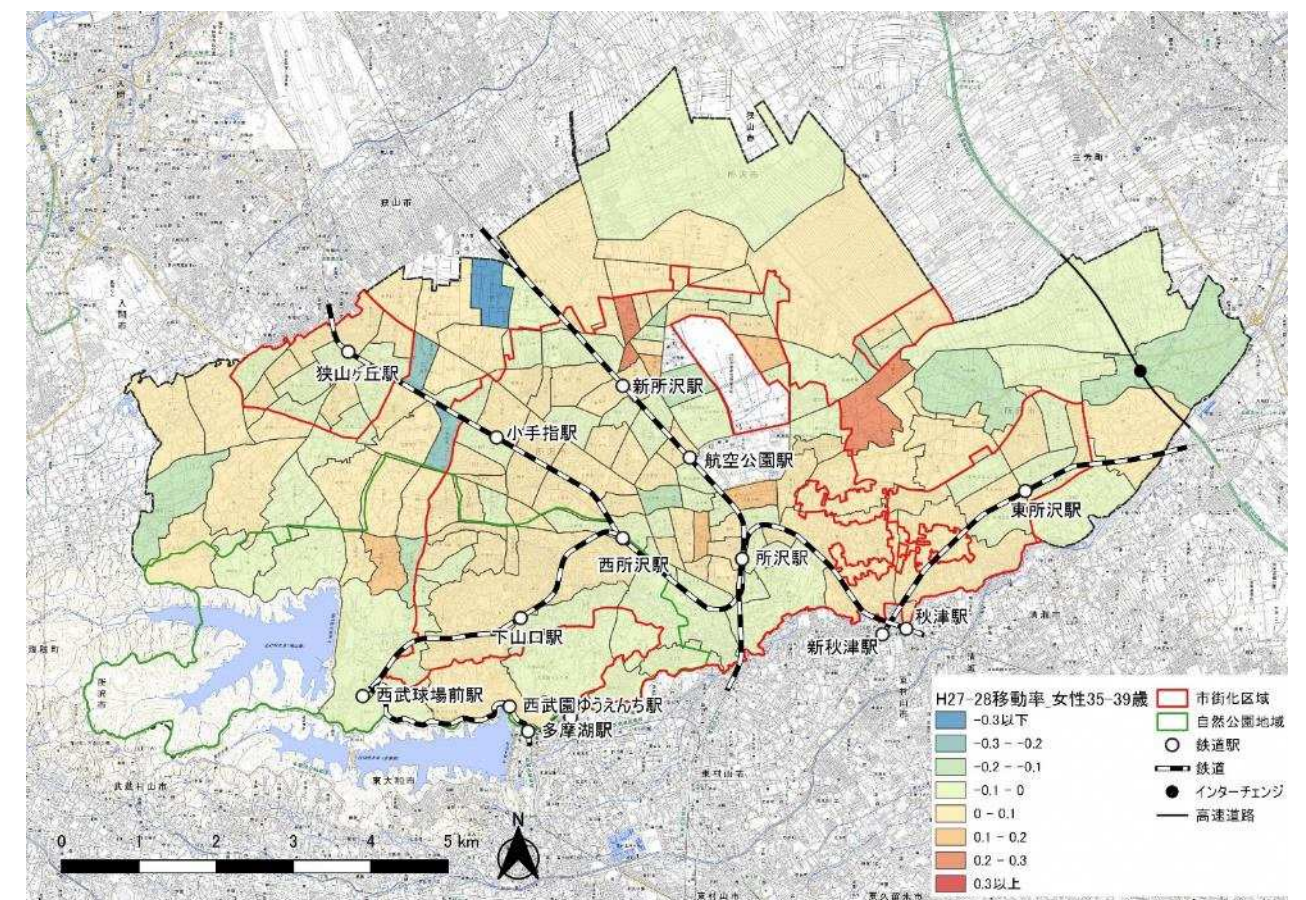
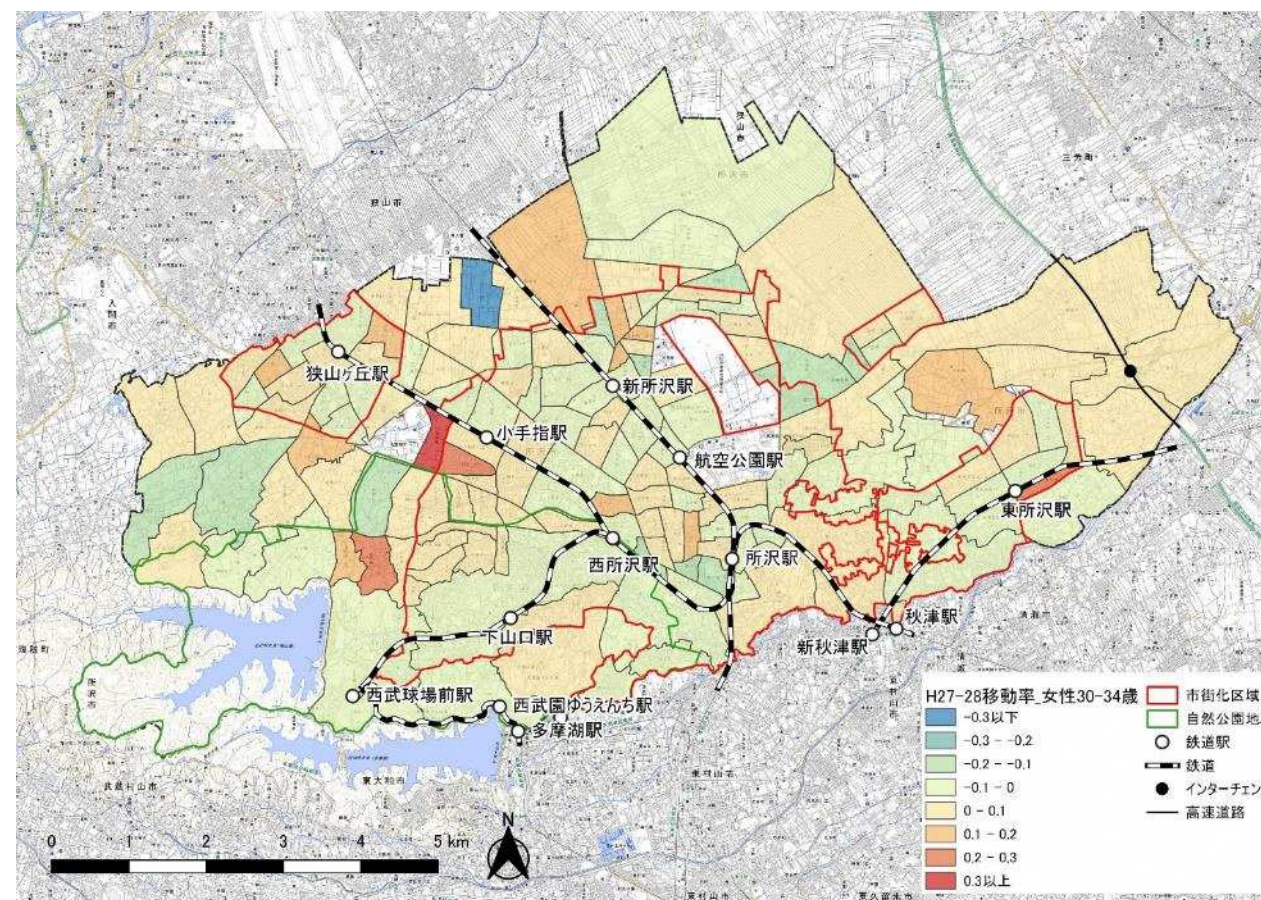
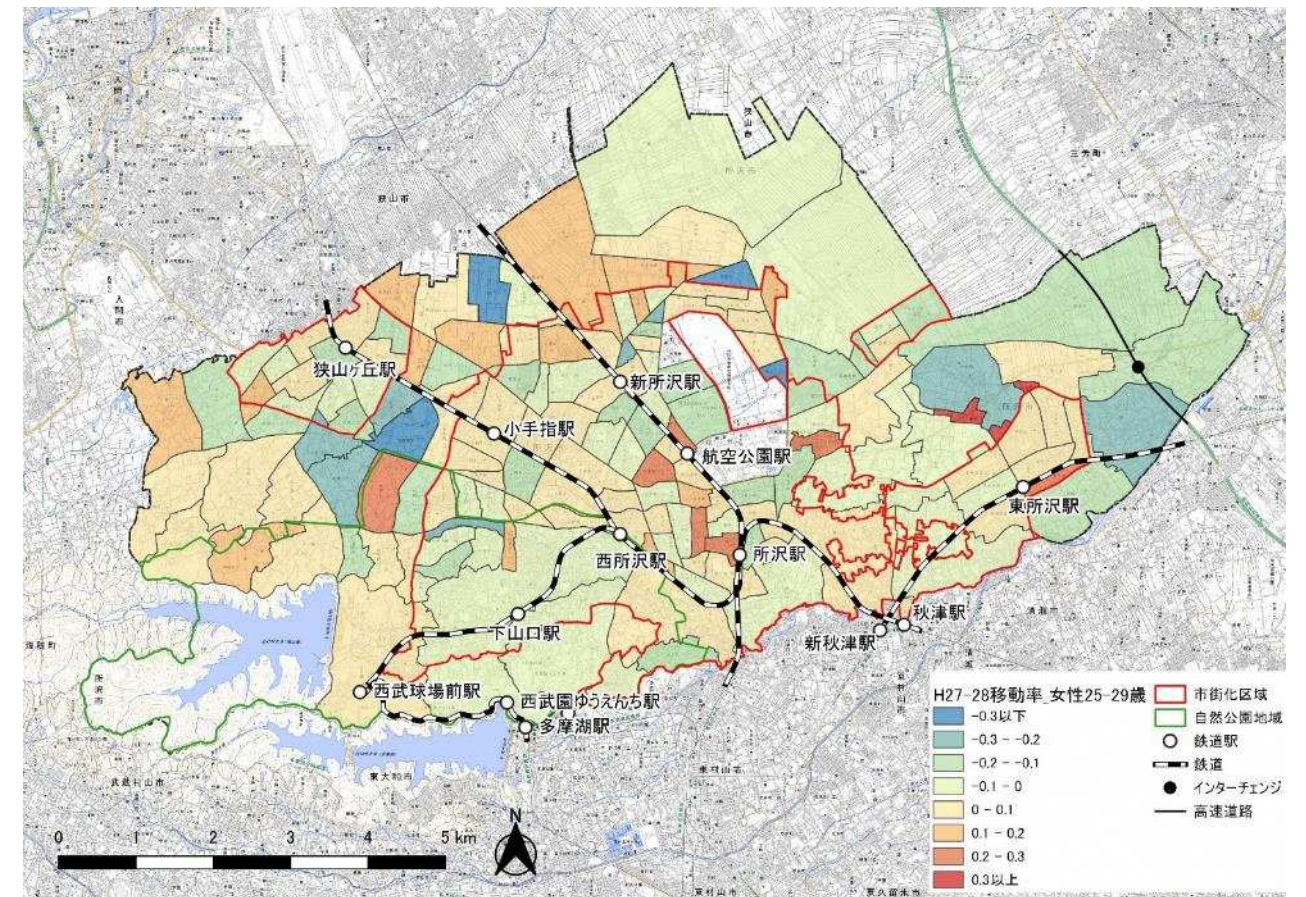
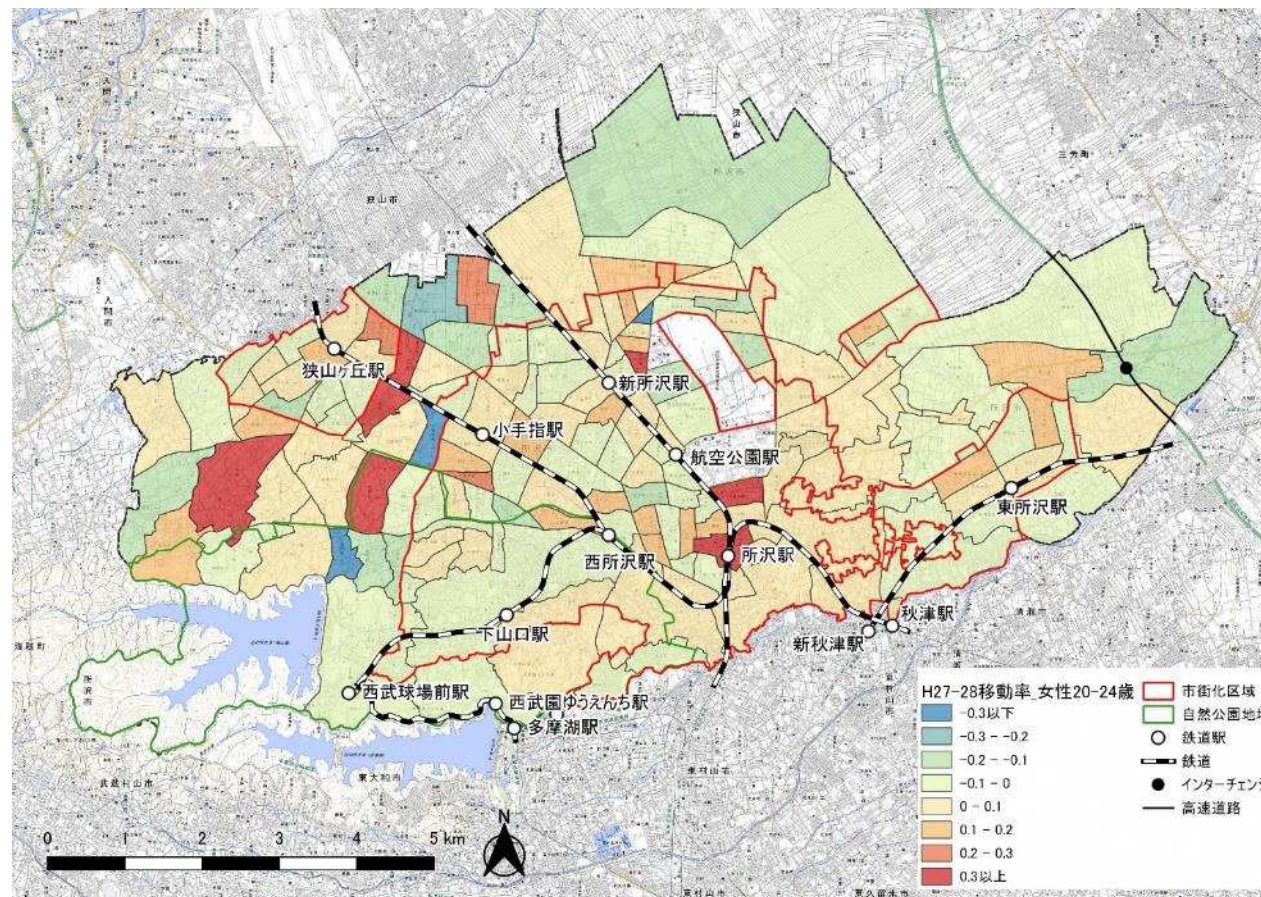


図4 2015年 2016年の20～39歳・女性の純移動率（住民基本台帳を活用した推計値）の分布

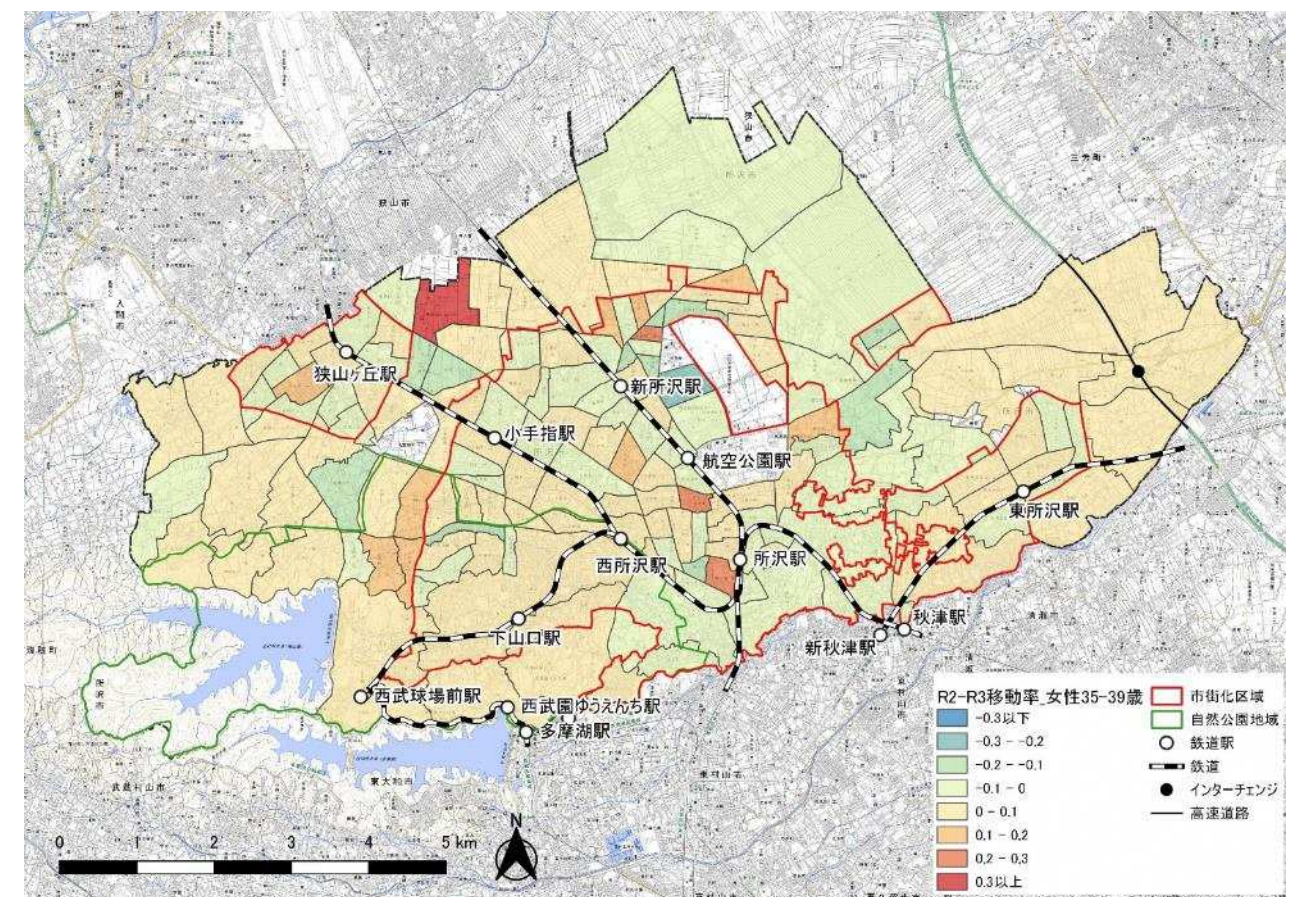
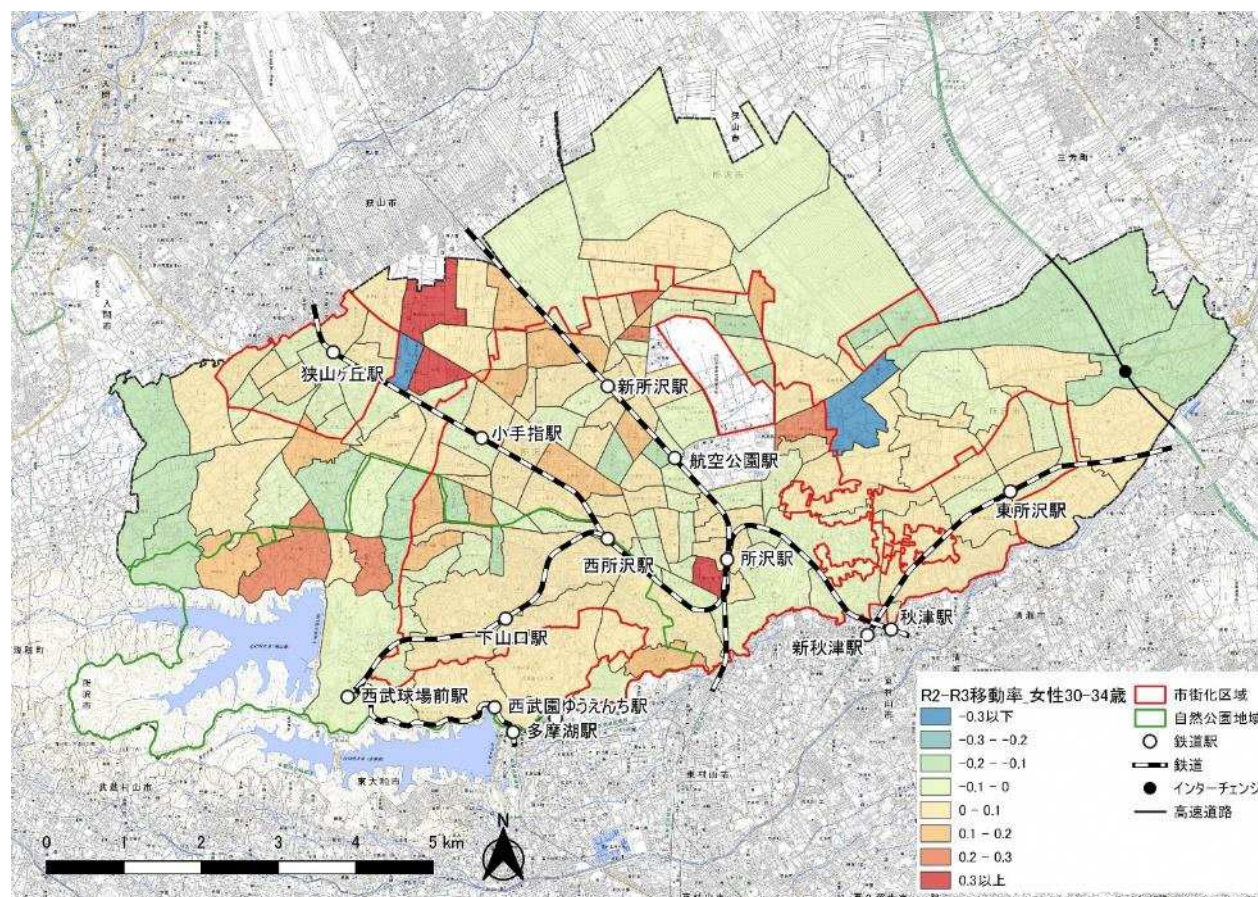
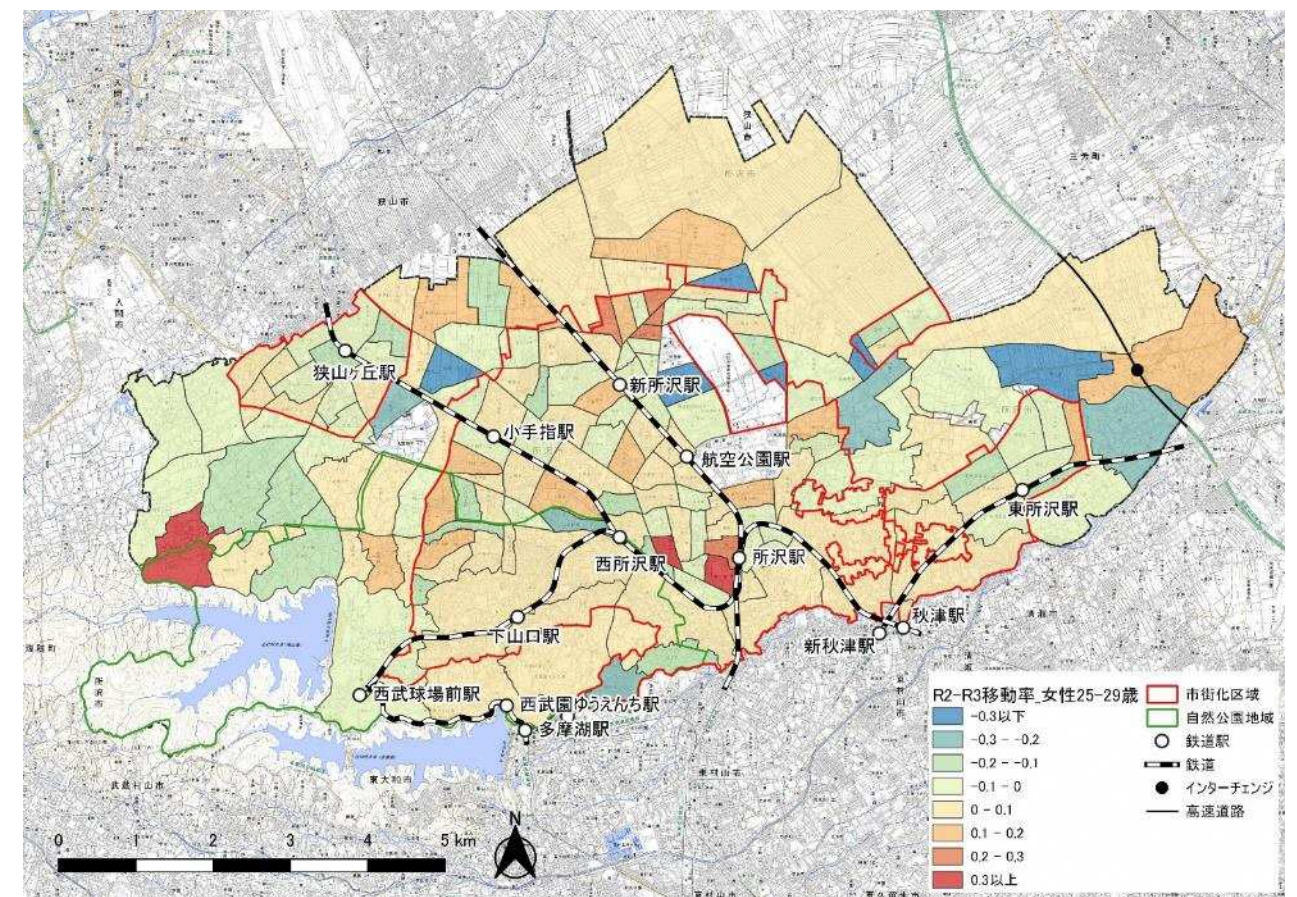
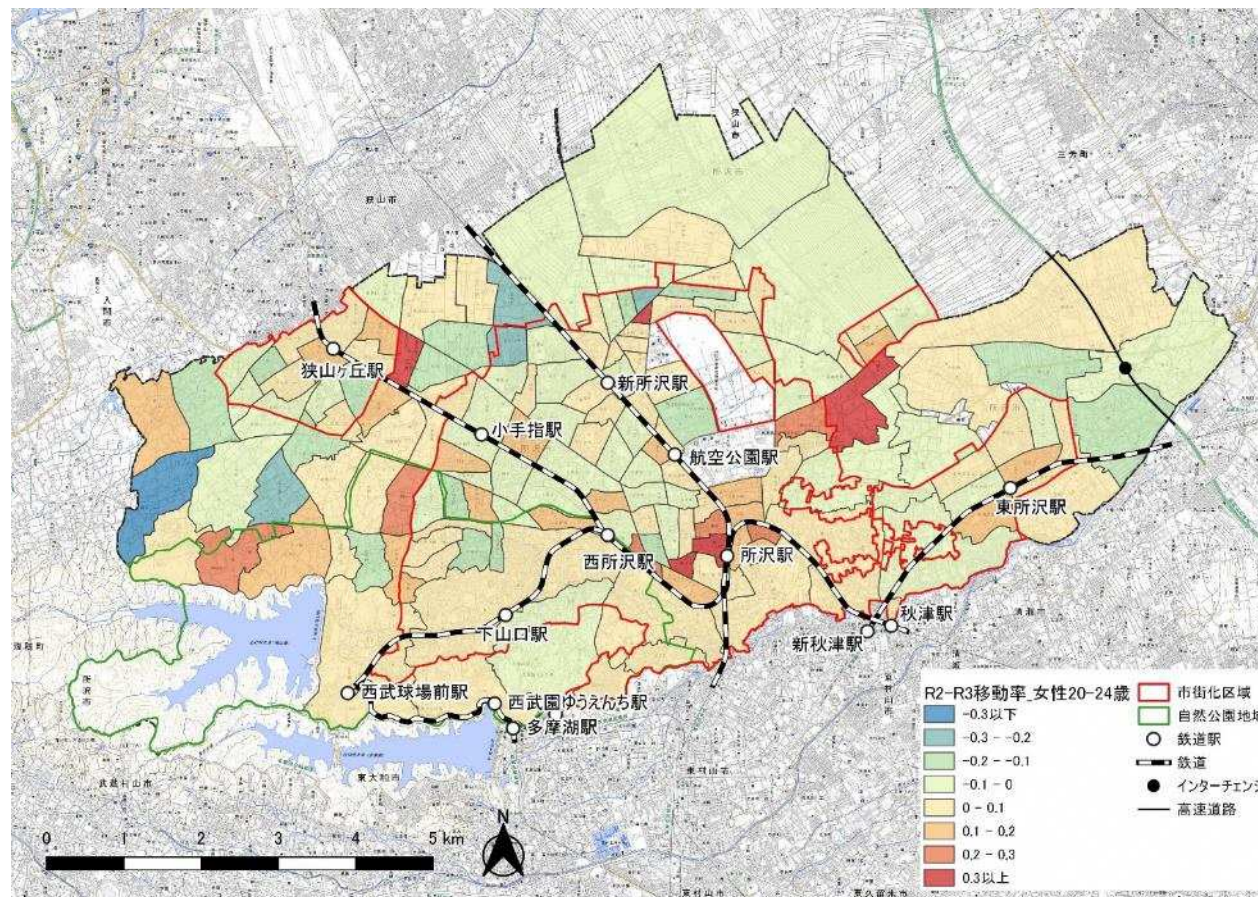


図5 2021年 2022年の20～39歳・女性の純移動率（住民基本台帳を活用した推計値）の分布

(2) 将来人口

平成 27 (2015) 年から令和 4 (2022) 年の各年における住民基本台帳を用いて、町丁目・250m メッシュの将来人口を推計した。

(人口密度)

- ・ 2022 年 (図 6 左上) において、市中央部の新所沢駅、小手指駅、西所沢駅、所沢駅周辺や市北部の狭山ヶ丘駅周辺の人口密度が高い。所沢駅と西所沢駅の間に位置する町丁では、150 ~ 300 人/ha の高密度であり、特に東町では 301.2 人/ha である。一方で、市街化調整区域ではほとんどの地域で 20 人/ha 以下である。
- ・ 2035 年 (図 6 右上) では、各地域の傾向が 2022 年から大きく変化しない見通しである。
- ・ 2050 年 (図 6 左下) では、所沢駅と西所沢駅の間に位置する町丁の人口密度が高まり、東町では 554.5 人/ha となり、隣接する寿町においても 341.5 人/ha となる見込みである。一方で、新所沢駅や小手指駅周辺での人口密度は低下し、狭山ヶ丘駅周辺では現在整備中である駅東側の東狭山ヶ丘に人口が集中する見通しである。

(高齢化率)

- ・ 2022 年 (図 7 左上) において、市街化区域内の高齢化率は 20% 前後であり、特に東所沢駅、所沢駅周辺では 10% 前後の町丁が多い。市街化調整区域外では、30% 前後の町丁が多い。全市での高齢化率は、27.4% である。
- ・ 2035 年 (図 7 右上) において、市街化区域内の高齢化率は 20% 前後であることに変わりはない。市街化調整区域では、市西部の三ヶ島地区や市東部の柳瀬地区で 40% 台の町丁が増加している。全市での高齢化率は、30.5% である。
- ・ 2050 年 (図 7 左下) において、市街化区域内の高齢化率は 30% 前後になり、特に椿峰などの下山口駅周辺では 40% 以上の町丁が多い。市街化調整区域では、ほとんどの町丁において 40% 台になり、一部の町丁では 60% 以上となる。全市での高齢化率は、33.8% である。

(全年齢人口の変化率)

- ・ 2022 年 2035 年 (図 8 左上) では、新所沢駅、所沢駅、航空公園駅、小手指駅、狭山ヶ丘駅周辺で人口が増加する見通しである。特に市中央の鉄道駅周辺での人口変化率が高く、市街地再開発事業の完了年度に問わず、駅前で事業を実施した地域では、人口が増加する傾向にある。
- ・ 2022 年 2050 年 (図 8 右上) でも、市中央の新所沢駅、所沢駅、航空公園駅や、小手指駅、狭山ヶ丘駅周辺でも人口が増加する見通しである。

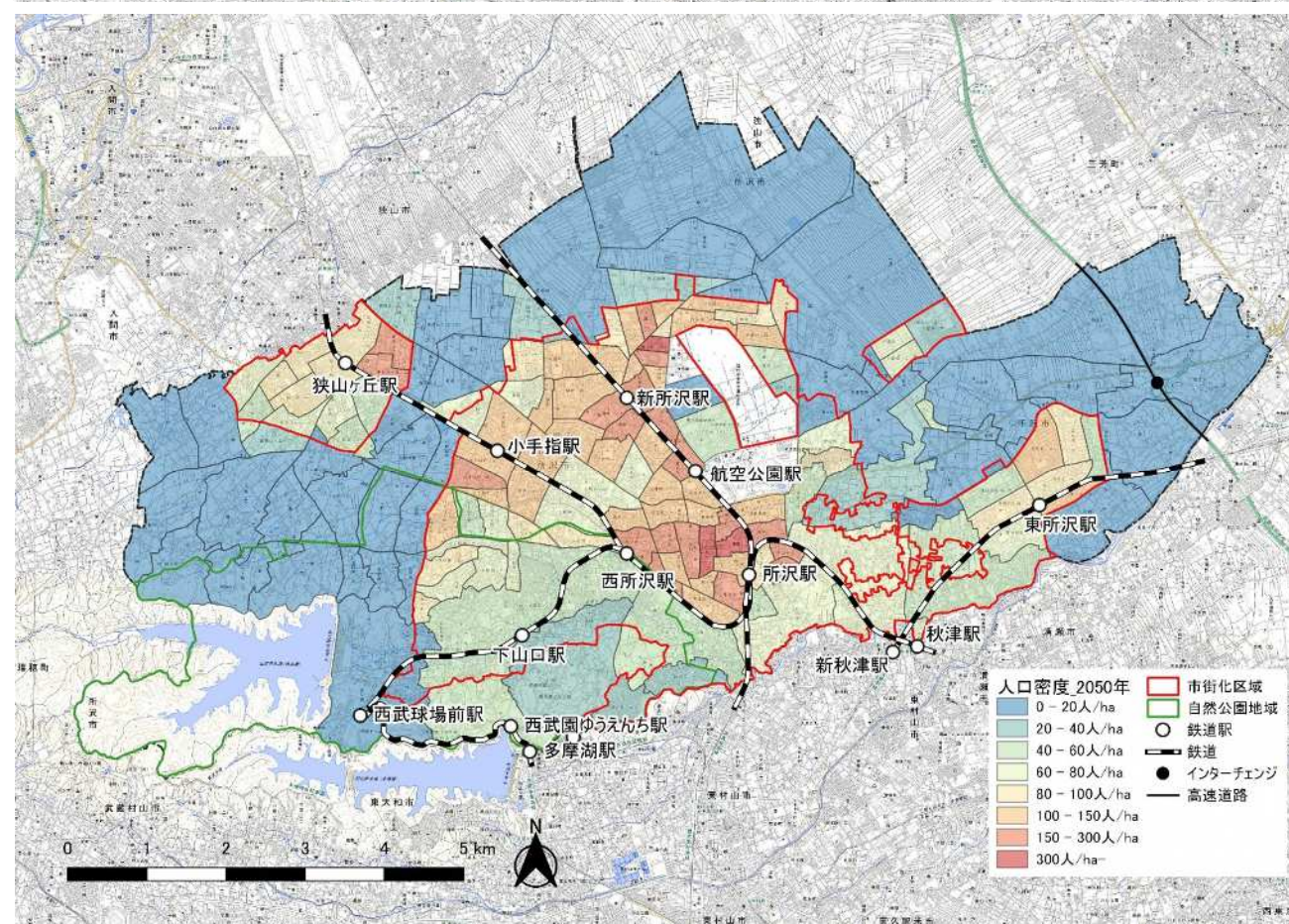
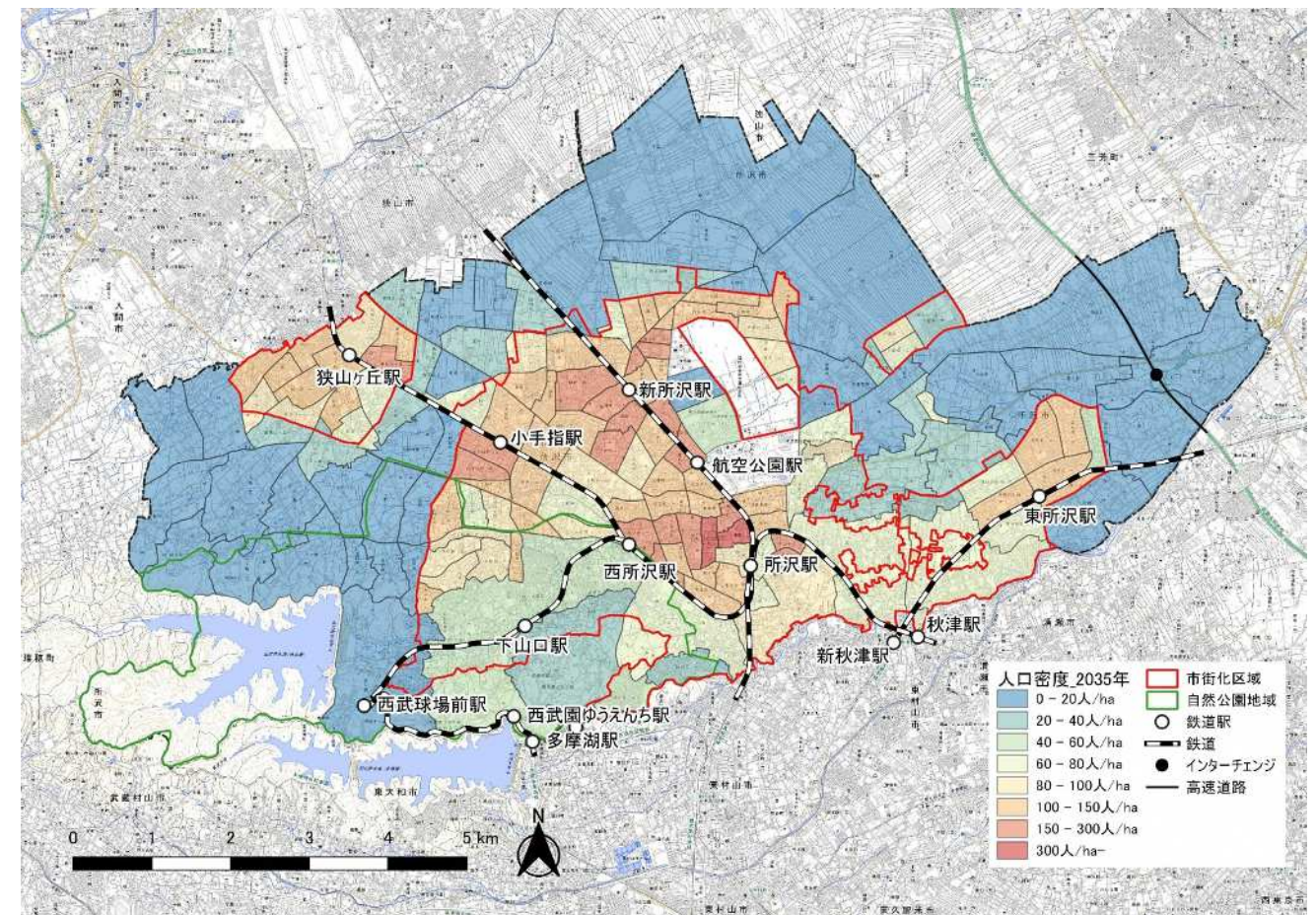
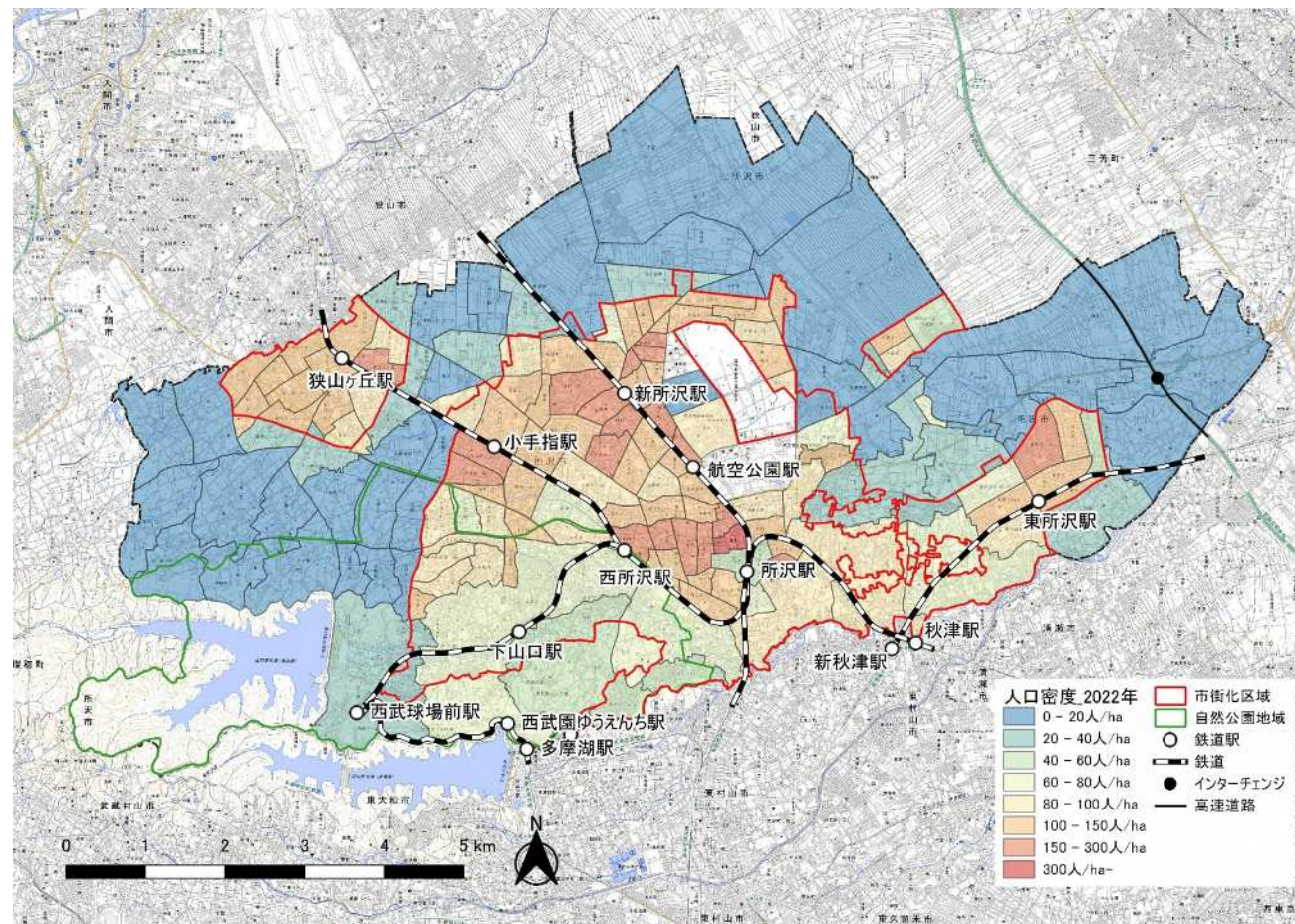


図6 2022年・2035年・2050年の全年齢人口の分布（2022年：住民基本台帳、2035年・2050年：住民基本台帳を活用した推計値）

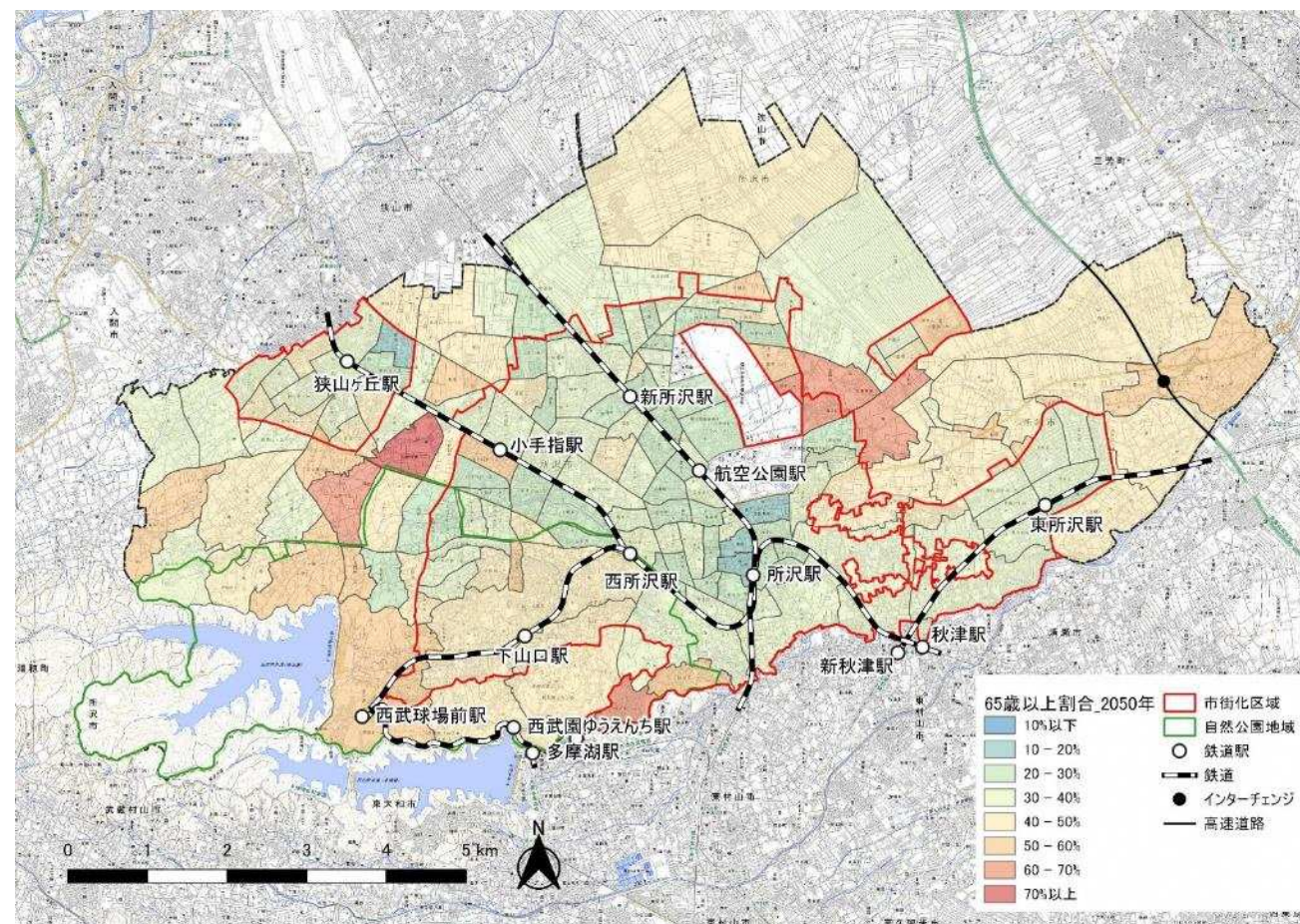
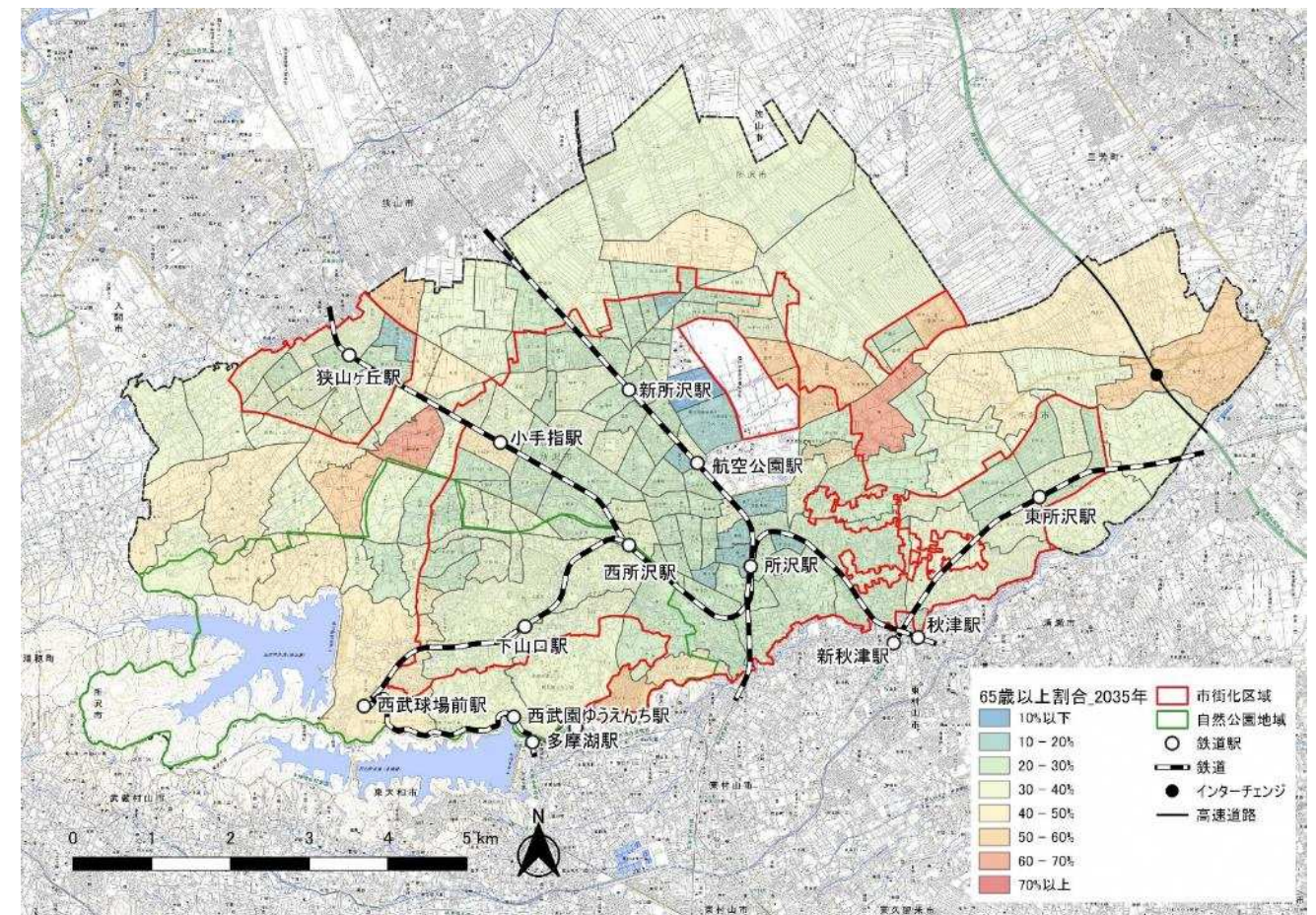
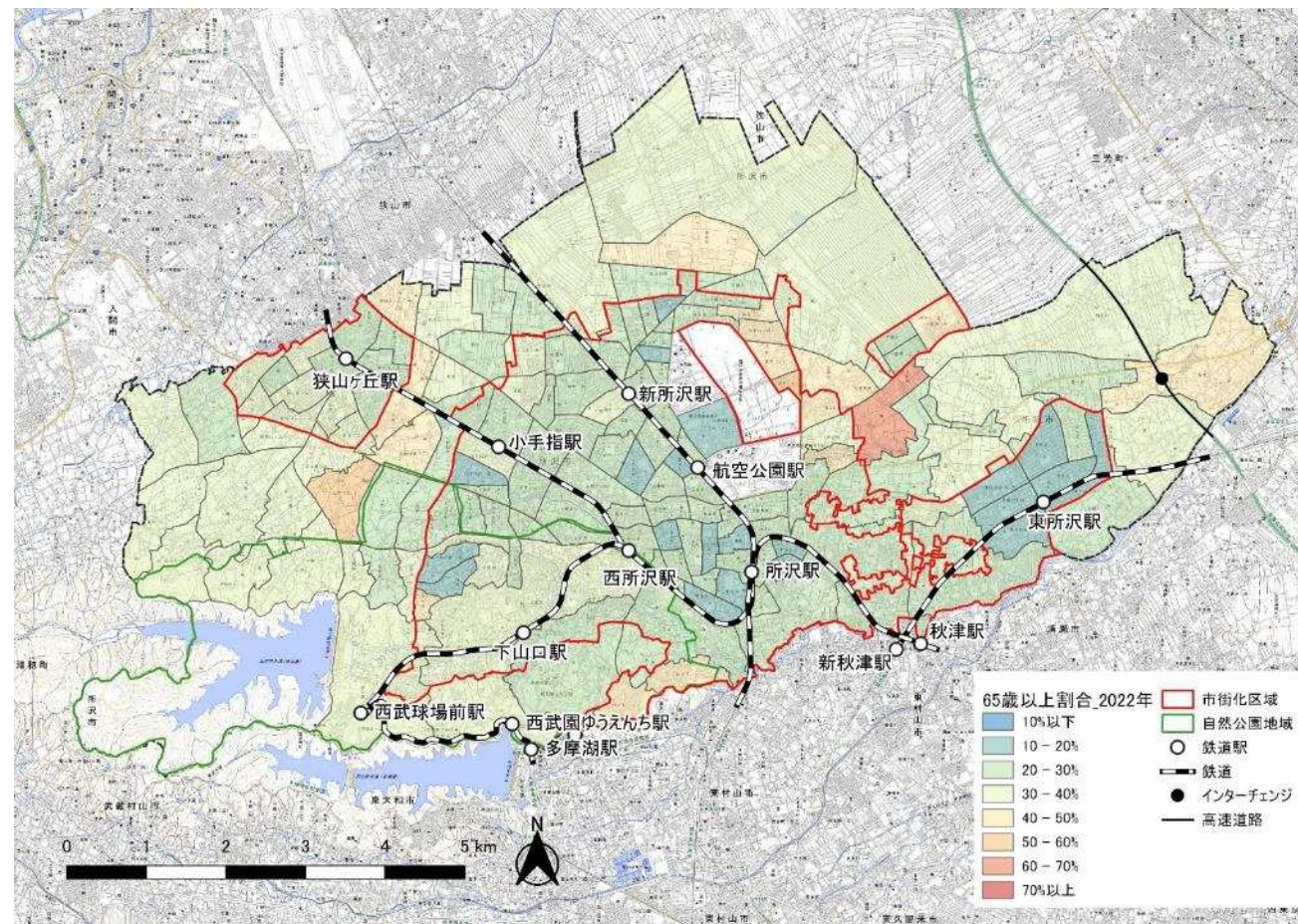


図7 2022年・2035年・2050年の高齢化率（65歳以上人口割合）の分布（2022年：住民基本台帳、2035年・2050年：住民基本台帳を活用した推計値）

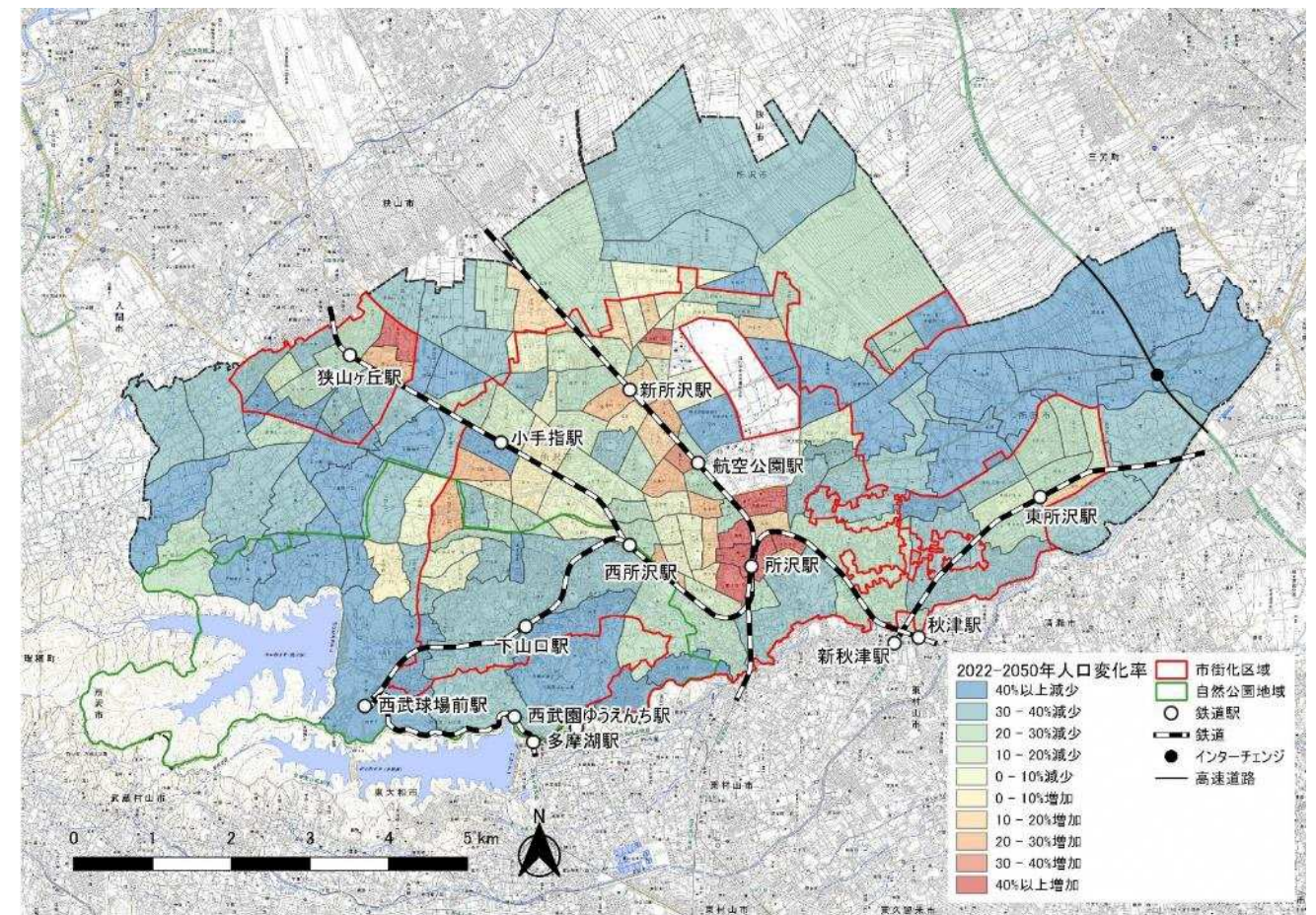
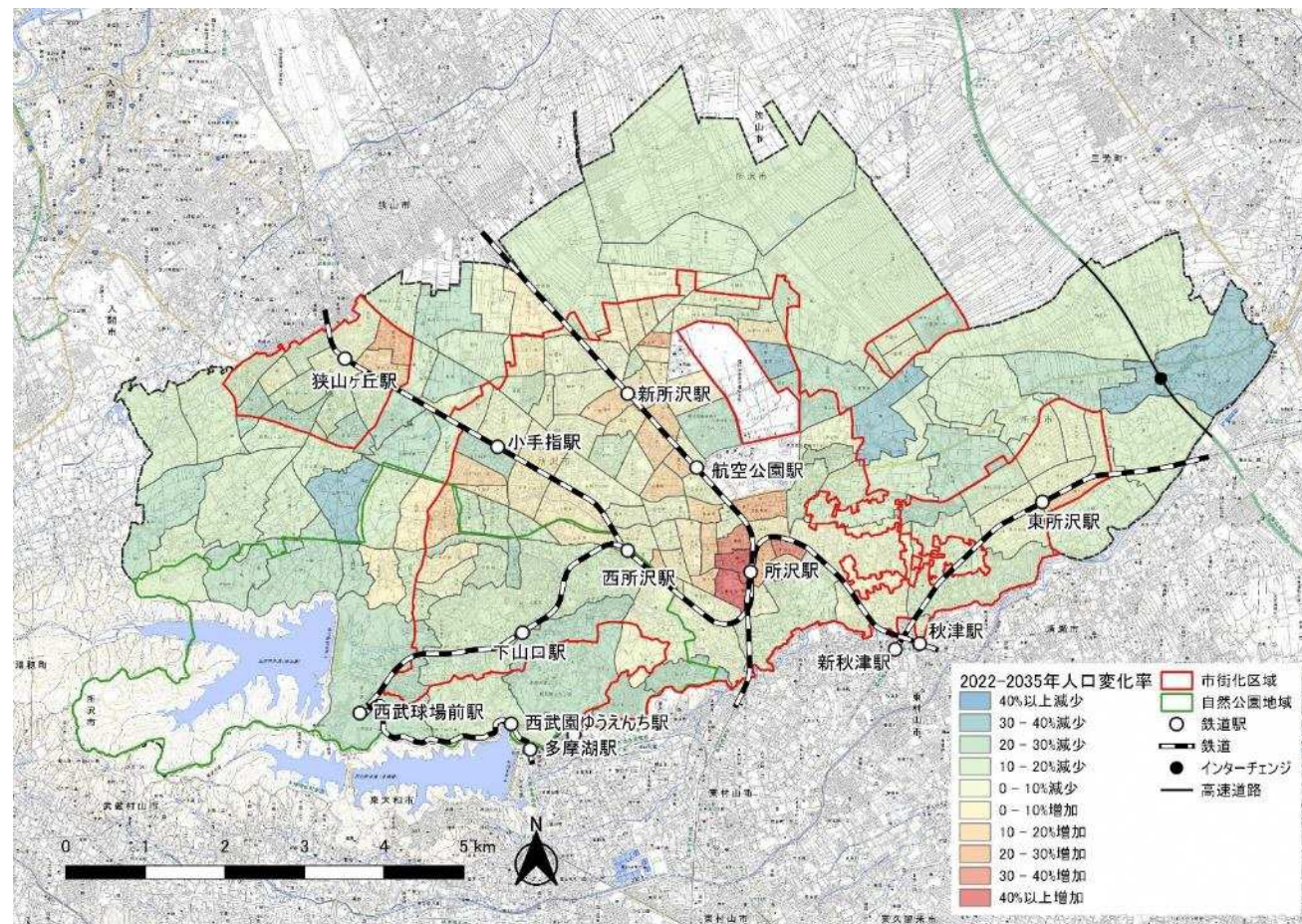
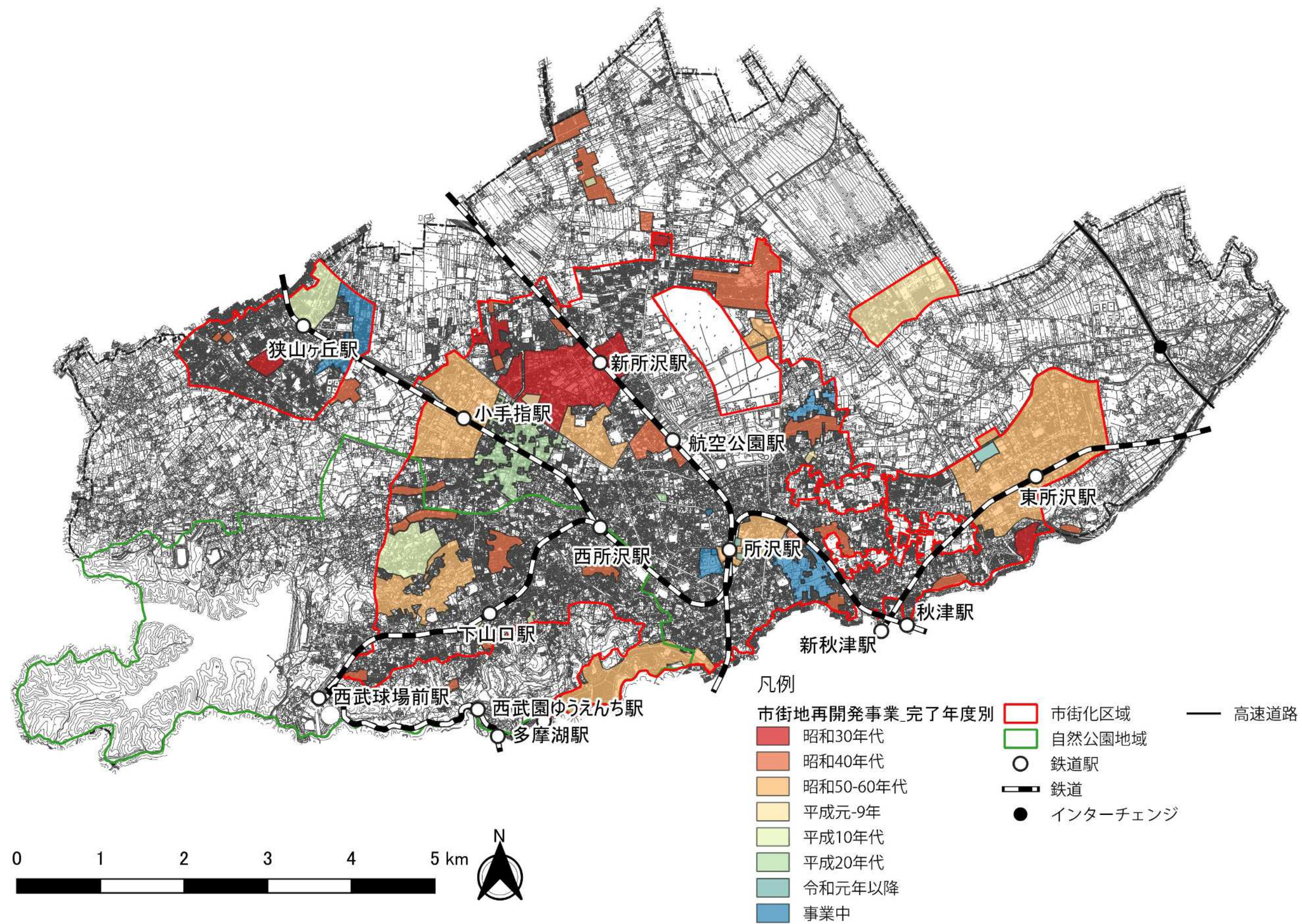


図8 2022年に対する2035年・2050年の全年齢人口の変化率の分布（2022年：住民基本台帳、2035年・2050年：住民基本台帳を活用した推計値）



参考図 完了年度別の市街地再開発事業等の分布（令和3年度都市計画基礎調査）